

I 実践

1 研究主題 「差別や偏見をもたず、誰に対しても公正・公平にふるまう生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、日立市の研究主題をもとにサブテーマとして①「人権に関する課題を把握し、理解することで、差別や偏見をなくしていこうとする心を養う。」②「相手の心の痛みがわかり、自ら解決しようとする意欲と態度を養う。」を付加している。①については、教師と生徒が人権教育の課題は何かということを常に追究しながら学んでいこうとするものである。②については、「思いやりの心」を育てる教育を各教科、領域の全分野について展開する必要があると考えた。また、本テーマは、日立市の人権教育推進計画（平成17年度）において小学校での発達の段階に即した課題であるが、特に本校の生徒は思いやりの心やコミュニケーション能力が未熟であるためこのテーマとした。

(2) 研究の内容

(ア) 人権教育の課題把握（「茨城県人権推進基本計画案」より抜粋）

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 子どもに関すること | ② 高齢者に関すること |
| ③ 障害者に関すること | ④ 外国人に関すること |
| ⑤ 同和問題に関すること | ⑥ ハンセン病・H I V感染症等 |
| ⑦ インターネットによる人権侵害 | |

(イ) 一人一人を大切にした授業の展開（伝え合う力を高める交流活動の工夫を通して）

(ウ) 道徳教育の充実

(エ) 思いやりの心を育てる活動

- ・あいさつ運動
- ・生徒会活動（クリーンアップ滑川，体育祭，潮風祭，募金活動）
- ・人権メッセージ，人権啓発ポスターコンクールへの応募
- ・学校だより，学年だより，人権通信による家庭への啓発
- ・地域との交流（敬老会，三世代交流のボランティア参加）

2 実践事例

(1) 思いやりの心を育てる活動

本校ではほぼ毎日，あいさつ運動を行っている。毎週水曜日には学級ごとに順番で生徒とその保護者およびP T A役員，月曜日・火曜日・木曜日には生活委員，金曜日には生徒会役員が昇降口に立ち，登校してくる生徒とあいさつを交わしている。

また，生徒会活動として，クリーンアップ滑川（夏休みに部活動単位で地域や校舎の清掃活動を行う。）や，体育祭での敬老種目（2年生の生徒がお年寄りへ感謝のメッセージを書き，当日の敬老種目でJ R C委員が配布する。）への生徒と地域の方々との関わり，募金活動（赤い羽根共同募金）に取り組んでいる。

(2) 人権作文・人権メッセージへの取り組み

本校では毎年，夏休みの課題に人権作文の選択肢を入れ，国語の課題として提示している。また，人権啓発の一環として県が募集する「人権メッセージ」に取り組み，人権について考える機会を設けた。その際，全校生徒を対象に「人権通信」発行し，その内容に「人権」についての説明と前年度の優秀作品を載せ，それをもとに各学級で道徳や学活の時間に人権について考える学習を行い，生徒一人一人が人権メッセージを書いた。生徒が書いた作品をみると，それぞれが一生懸命考え，取り組むことができたように感じられる。

(3) 地域との交流

毎年，地域の敬老会や三世代交流のスポーツレクリエーション大会などに生徒会の本部役員やJ R C委員会の生徒がボランティアとして参加している。本年度は，新たに地域の盆踊り大会の協力依頼があり，8月7日にJ R C委員会の生徒を中心に手伝いを行った。ボランティアとして参加する中で，地域の大人から教えてもらうことは多く，生徒にとって大変貴重な経験になっている。お年寄りや小学生，幼稚園・保育園児との関わりの中で生徒たちの顔も自然にほころんでいる。

このような形で地域との交流においては，まだまだ限られた生徒しか参加していないが，参加した生徒たちの取り組みや感想を何らかの方法でより多くの生徒たちに伝えることによって，高齢者や年少者に対する思いやりの気持ちを少しでも育てていければと思う。

(4) h y p e r - Q U（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）の活用

本校では，学校経営の基本理念の「本校の生徒像」にある「豊かに」の具体

的施策の中にhyper-QUの実施を位置づけている。このアンケートをとることにより、一人一人が学校生活において思っていることを把握し、生徒理解につなげることができると考えられる。また、生徒自身が各自へのアドバイスをもとに自分のこれからの学校での生活について考えたり、人とのかかわりについて、それまでうまくいかなかった部分を改善するきっかけになればと思う。

本年度、全学年においてhyper-QUのアンケートを実施した（5月および11月の2回実施）。出てきた結果を各担任が分析し、配慮を要する生徒（要支援群、学級生活不満足群、非承認群、侵害行為認知群等）への今後のかかわりについて検討し、レポートにまとめた。ただし、アンケートの結果がすべてではないので、配慮を要する生徒として出てこなかった生徒にも気を配っていく必要がある。

（5）伝え合う力を高める交流活動の工夫を取り入れた授業づくり

本校の本年度の課題研究では「わかる喜びを実感できる学習指導の在り方ー伝え合う力を高める交流活動の工夫を通してー」という研究テーマを設定した。授業の中に意図的に協働学習の場を設定し、教師が中心となる授業から生徒対生徒の授業へと転換し、生徒の伝え合う力を高めようと考えたものである。

学校において一人一人の生徒が学習を成立させ、学力を高めていくための要因の一つとして、学級経営があげられる。このことは、「学級経営が充実していれば、安心感や自己存在感に包まれた落ち着いた環境の中で学習に集中して取り組むことができ、生徒がもてる力を存分に発揮して学習に打ち込める」ということだと考える。しかし、本校の実態として、集団生活になじめなかったり、友人関係をうまくつくることのできなかったりして、学習に取り組む以前に学校生活そのものにうまく適応できない生徒も多く、それが授業においてマイナスの効果をもたらしている様子も見受けられる。これは生徒たちのコミュニケーション能力が不足していることによるものとも考えられる。お互いが理解し合い、認め合うことによって、学級に生徒の居場所をつくっていくためには、彼らのコミュニケーション能力も育てていく必要があり、それはまさに生徒の人権感覚を磨くこととつながっている。

授業に協働学習の場を多く取り入れることによって、少しずつではあるが以下のような学びの様子がみられるようになってきた。

- ・ 多様な考え方をすりあわせることによって互いの差異を認めることができるようになってきた。
- ・ 生徒同士のかかわりで、分かった生徒が分からない生徒をケアし、集団のレベルアップにつながる様子も見られた。
- ・ 未知の課題に協働して挑戦する姿勢が出てきた。

（6）成果

あいさつ運動や学校行事への取り組みでは、まじめに参加し達成感を味わえた生徒が少なくない。また、人権メッセージでは、人権とは何かを考えることで、各自が今までの生活を振り返り、自分を支えてくれている人々への感謝の気持ちをもつことができたり、他人を思いやる心をもつことができるようになったりした。地域との交流活動には、生徒会役員やJRC委員が参加しているが、委員会の生徒でなくても自主的にボランティアに参加したいと申し出る生徒もいた。当日も地域の方々と楽しくふれあうことができ、貴重な経験となった。

II 今後の課題

様々な取り組みをしていくなかで、まじめに参加できる生徒とそうでない生徒の差があるのが残念である。今年度の募金活動においても僅少な額しか集まらず、たすけあいの気持ちをもっと育てていかなくてはならないと感じている。人権メッセージでは、参考資料として昨年度の生徒作品を提示したところ、丸写しして提出する生徒もいたので、物事に取り組む際の心構えから教えていかなければならない。

III 人権コーナーの設置

職員室前の廊下に設置。人権カレンダーやポスター、お知らせ等も掲示している。

